

〃  
人生の復讐  
〃

クリスマスの日。路地には一人の男がたたずんでいた。

男は呆然としていた。男はクリスマスという日に、大事な友人を自分自身の手で殺してしまっていた。

男は、わからなかった。なんでこんなことになってしまったんだろうと、一人考えていた。考えても、考えてもわからない男は、自分自身の行動、あるいは人生までをも、振り返っていくことになる。

しかし、振り返った時、彼には友人を殺した記憶がなくなっていた。すべての記憶が曖昧になり、はっきりと思いつけない。また、記憶の欠如が乱雑になり始め、彼には自分自身の存在さえ、理解できなくなりかけていた。

そんな時、もう一人の自分という存在を彼自身が意識し始める。もしかしたら、もう一人の自分がすべての答えを知っているのでは、と思いついた彼は、もう一人の自分を求めていくようになる。

さらには、次々と、今まで体験のしたことのない、不思議で奇妙な現象が彼自身を襲いだした・・・